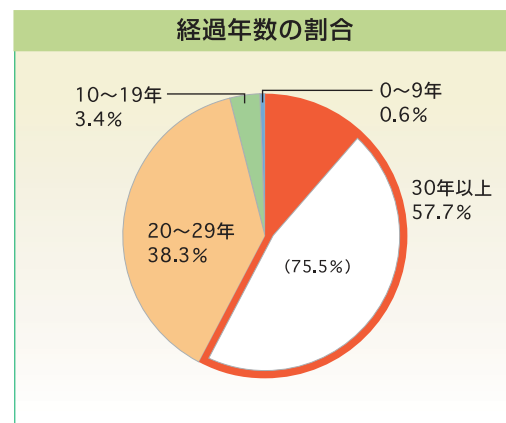
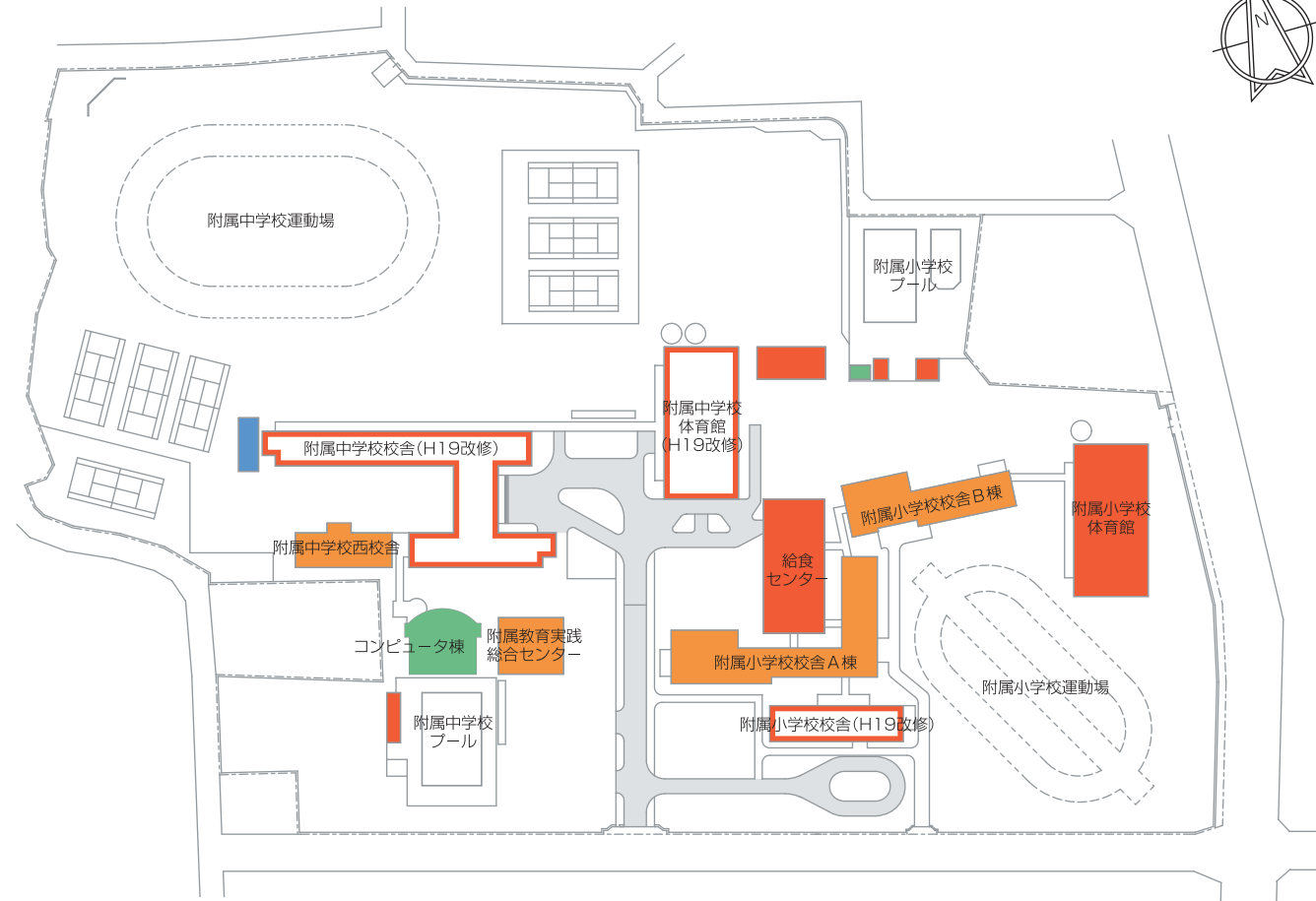


## 2. キャンパス概要

### 2.2 施設の現状

#### 2.2.1 経年別建物配置図



※( )内は改修歴有の割合を示す。

経過年数	築年数	うち改修歴のある建物
30年以上	昭51年以前	□
20~29年	昭52~61年	
10~19年	昭62~平8年	
0~9年	平9年以降	

(平成19年5月1日現在)

#### 2.2.2 現状施設のデータ

京町キャンパスにおいては保有面積が約12,900㎡あり、経年25年以上の建物面積が約8,000㎡で全体の6割を占めている。この内5,600㎡の施設は耐震補強やバリアフリー対策を含めた老朽改善整備を完了している。これにより耐震化は約9割を達成した。一方、残る7,300㎡の施設は大半が経年20年以上であることから計画的な改修整備が必要である。

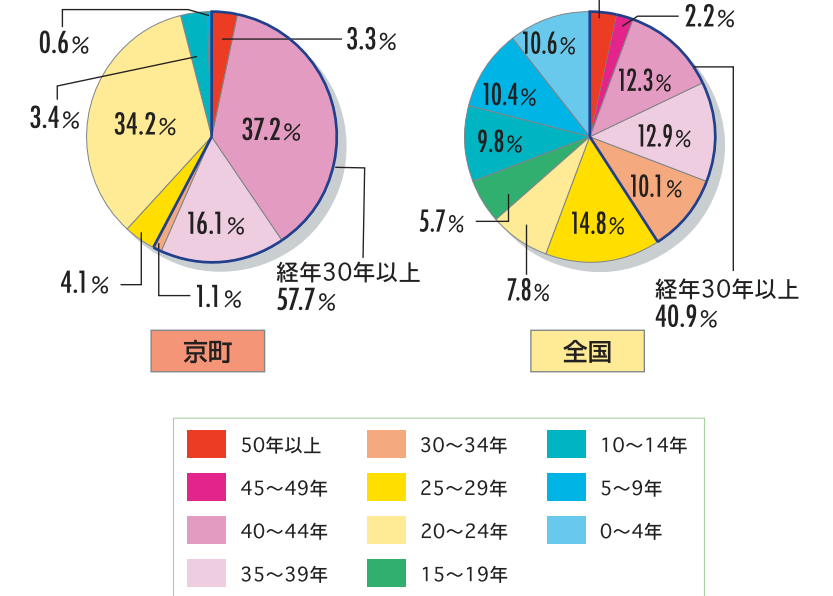
附属学校の整備率は約78%であるが、教育実習生の諸室をはじめ、総合的な学習や選択学習のための多目的教室、カウンセリング室、PTA室等が不足している。

#### 面積区分毎の要整備面積及び整備率

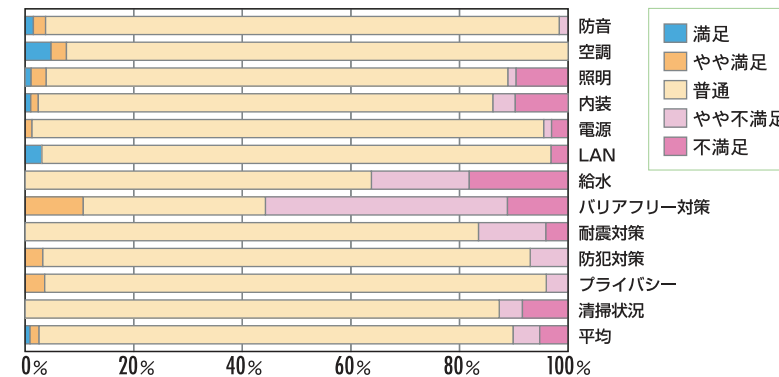
面積区分	教育・研究施設	附属学校
保有面積(㎡)	527	12,233
必要面積(㎡)	529	15,749
整備率(%)	99.6%	77.7%
全国整備率との比較(%)	京町: 99.6%, 全国: 86.3%	京町: 77.7%, 全国: 77.2%

(平成19年5月1日現在)

#### 経年別保有面積割合

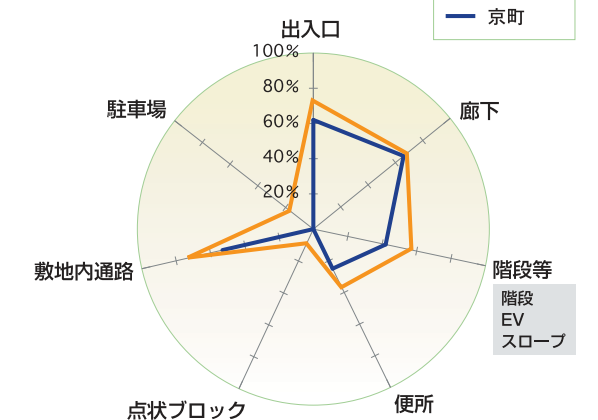


#### 室調査分析結果



教職員を対象とした室調査によると、特に、『バリアフリー対策』について不満足、やや不満足と回答した割合が平均値を大きく上回り、特に利用者が不満と感じている。このデータからも既存建物に対するバリアフリー対策を含めた老朽改善整備が必要である。

#### バリアフリー調査結果



バリアフリー調査集計表によると出入口や廊下等、敷地内の通路を除いて対策率が5割以下となっている。このデータは大学全体に比べても低い値となっており、整備の必要がある。